

1 研究主題

「『やってみたい』を大切にし 対話を通して 学び合う児童の育成」(2年次)

～ 生活科・総合的な学習を通して ～

2 研究主題設定の理由

本校の教育目標は「義之校精神(五つの心)を身につけ主体的に学び、ふるさと西江原を愛する児童の育成」であり、具体像を「考える子」「思いやる子」「やりぬく子」とし、保護者や地域との連携を深めながら教育活動を推進している。昨年度の研究では、児童の「やってみたい」という願いを単元の中心に据えた構成や、視覚資料の提示の工夫により、主体的に課題意識をもって学習に取り組む姿が見られるようになった。また思考ツールを活用することで、考えを視覚的に整理し、まとめていく力も向上してきた。一方で、低学年から高学年へと続く系統的な学びの接続や、児童が「自ら学びたい」という思いをもつことができる教材開発の難しさには依然として課題が残る。また対話の場面においては、特定の児童が中心となって話合いを進めてしまったり、自分の考えを一方向的に伝えるのみに留まったりする実態があり、互いに出し合った意見を練り上げ、考えを深め合うような話合いには至っていない。また、思考ツールの活用についても教師主導の提示が主であり、解決の目的に応じて児童が自ら思考ツールを選択し、活用する姿までにはなっていない。

こうした本校の児童の実態から、今年度は児童の「やってみたい」という思いから生まれた課題の解決に向け、学び方の計画を立てて、実行することができる力(主体的な学び)の育成と、互いの考えを練り上げていく対話力(対話的な学び)の育成に重点を置くことにする。

児童が課題を「自分事」として捉え、主体的に探究し続けるためには、身近な地域である「西江原」を題材の中心にした学習を行っていくことが不可欠である。地域に根差した多様な体験活動を通して、実社会への興味・関心を高めるとともに、仲間との対話において「他者の視点を取り入れ、より良い考えを構築する力」の育成を目指したい。そのような思いから、生活科・総合的な学習の時間を中心として全校で研究を行っていくこととした。

3 目指す子ども像

○自分と身近な人々、社会、自然と関わりながら、自分から課題を見付け、実生活や実社会における課題を自分事として受け止め、解決に向けて学びを組み立てながら、粘り強く探究し続ける子ども。

○解決の目的に応じて、考えるための方法(思考ツール)を選択・活用し、仲間との対話を通して他者の視点を取り入れながら、自らの考えをより良いものへと練り上げ、協働して学ぶことができる子ども。

4 研究の仮説

児童の思いを大切にし児童と共に探究課題を設定したり、探究プロセスを意識しながら、課題解決に向けた計画を立てたりすることで、児童が解決に向けて自ら学びを進めたり、互いの考えを練り上げるための「対話」を重ねたりすることができるようになるのではないかと。

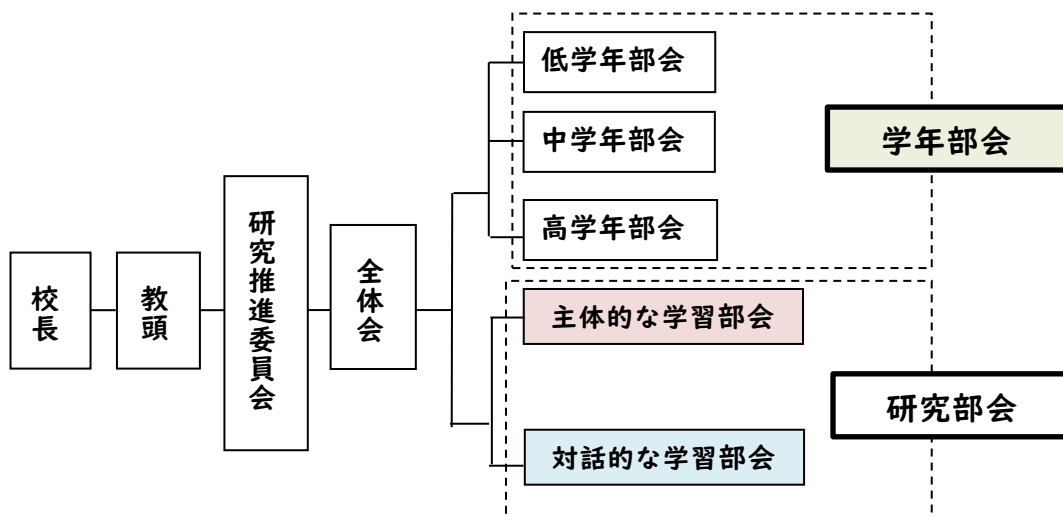
5 研究の視点

- 学びのつながりを意識した単元・授業構想ができるようにするために（学年部会）
 - ・チームでの単元・授業構想（主体的・対話的な学習ができるような授業づくり）
 - ・地域人材の活用、連絡・調整

- 課題解決に向けて学び方の計画ができる児童を育成するために（主体的な学習部会）
 - ・探究プロセスを意識した学習を進められるような教室環境づくり
 - ・児童が主体的に学習に取り組めるような内容の検討

- 対話を通して学びを深める児童を育成するために（対話的な学習部会）
 - ・トークトレーニングの計画、実施
 - ・思考ツールを機能的に活用できるような環境、教材づくり

6 研究組織



（研究組織 イメージ図）

7 研修計画

1 学 期	4 月	研究組織・計画の確認・研究授業のもち方の提案 校内研修 研究構想図の確認・研究授業計画作成・指導案の形式提示 学年部会（年間計画の確認、授業者の決定）
	5 月	研究部会（年間計画の作成）
	6 月	研究部会（取組の実施、校内環境の整備）
	7 月	研究部会（取組の実施、校内環境の整備）
	夏季休業中	学年部会（1学期の振り返り・指導案の作成）
2 学 期	9 月	学年部会（指導案作成・授業準備） 研究授業①
	10 月	学年部会（指導案作成・授業準備） 研究授業②
	11 月	学年部会（指導案作成・授業準備） 研究授業③
	12 月	研究部会（取組の振り返り）
3 学 期	1 月	研究のまとめ
	2 月	今年度の成果と課題・部会ごとにアンケート
	3 月	来年度に向けて

8 運営

研究推進委員会で原案を作成し、全体会で話し合い、共通理解を図って進める。

○研修日 毎月第2 or 3 水曜日 全体会・部会・その他

○研究授業 各学年部1人